

館報 おなかだ

令和4年9月1日現在
 世帯数： 3,298 戸
 男 人 数： 3,605 人
 女 人 数： 3,737 人
 計 数： 7,342 人

川で遊ぼう

子どもも大人も楽しかった！

女鳥羽川 川遊び体験記 8月20日 (土)

夏休みも終わりに近い8月20日、岡田地区子ども会育成会による『川で遊ぼう』が3年ぶりに女鳥羽川で開催された。子ども22名、大人も合わせると53名が参加した。

まずみんな協力してニジマス

をバケツリレーで川に放流。子ども達が見守りの大人達と手をつないで川に入っていく様子は、滑ったり叫んだりしながらも、とても楽しそう。いざ、

捕まえるとなると、『魚こわい！』と言っていたのは初めの数分。誰もが何度も何度も粘り強く真剣に獲物を狙っていた。

その間、陸上ではニジマスを焼く準備。捕まえたニジマスが届くと、ここからの育成

会の皆さんの流れ作業がすごい。ニジマスを串に刺すまでの一連の共同作業はもはやプロ。さらにニジマスが並んで火にあぶられる様子はもはや芸術。焼き加減まで細部にこだわりが光る。

ニジマスを探している間に川にカニがいることに気が付き、子ども達の興味は川の生き物へ。カニがいるいる！小さい魚も獲れ始めると、みんなで役割分担しながら夢中で捕っていた。水生昆虫も見つけて、その姿を見て大騒ぎ！

岡田小4年の百瀬脩太君は『楽しかったし、ニジマスがふっくらして美味しかった。低学年も楽しめて良かった』と話してくれた。

子ども達が元気に遊んでいる姿を見ると、それだけで大人も嬉しくなり、元気になる。そんなことを感じた日だった。そして、地域の大先輩方のパワフルさがとても刺激的で、それも楽しい一日だった。

(体験取材 西田委員)



岡田 ぼくと ニュース

変わりゆく松岡

〜住みやすい町会をめざして〜

● 松岡 ●

私が小学生の頃、松岡はおよそ100世帯でした。ほとんどが養蚕農家であちこちに桑畑があり登校途中で桑すみ(桑の実)を食べて、学校に着くころには唇が紫色に染まっていた。また町会組織もなく昭和29年に松本市に合併するまでは岡田村でした。道ですれ違う皆さんはほとんど名前と顔はわかりました。

時が流れて現在の松岡町会の世帯数は1、300世帯、人口は2、720人と大変な増加で松本市では5番目に大きな町会になりました。

新型コロナウイルスの感染拡大で従来の通りの行事や活動が出来ず、歯がゆい思いをしているのは私ばかりではないと思います。現役を退いて早いもので10年が経ち、次の世代に何を残していかなければならぬかを考えるにつけ日々葛藤があります。

退職後に一生を通じて関われる趣味を持つことが大切だと今更ながら思っています。私の趣



松岡公民館



松岡公民館道祖神

味はビデオ撮影、編集です。こどもの成長記録から始まり、もう40年位になります。撮り貯めたテープ・ディスクが2,000本以上あります。岡田公民館の視聴覚委員も30年を越えました。退職してから始めるのではあまりにも経験が少なすぎ、現役の時から続けていて良かったなあと思います。

また、町会の役員も10年にありますが、公民館長、衛生部長、副町会長、町会長といの意味で勉強させていた

き、少しは地域に貢献できたかなあと考える日々です。

この原稿を書いていて、高校時代に新聞部にいたことを思い出しました。(笑)

若い頃、10年間、東京にいました。今思えば地元を離れて初めて松本の良さや親の有難み、お金の大切さ等、貴重な体験が土台になっていると思います。

最後に一言、松本の人々は自分達のまちを「長野県の松本」とは言わず、「信州の松本」と呼びます。県庁は長野ですが、日銀支店は松本にある。このことは先人達の魂の賜物だと思えます。松岡町会を今後ともよろしくお願いいたします。

(松岡町会長 立澤 牧男)

岡田宿の面影を残す家も、残りわずか。

先祖代々受け継がれた訳ではないのに、まさか自分達が移り住むとは思って

みませんでした。そこには特別な思いがあつたというよりは、流れに身を任せた感じでした。

もちろん古民家に魅力を感じ、自分の意思でローンを組み、手続を進めたのだけれど：「買おう！」と思った一番の決め手は、先

住のご家族が建物を残し

たいという強い思いをお持ちだった事。さらに、誰とも分らない私たち家族を受け入れてくれた事。建物は江戸時代末期に建てられたもの

ですが、見た感じそれほど歪んだ土壁の民家ですが、壁の隙間をふさぎ、水洗トイレを設置して、LEDの照明を配置。オシャレに内装すれば、令和の家に肩をならべられそうです。いやそれ以上だ!!(笑) そんなこんなで縁あって移り住んで4年。素敵な我が家はあと少しで完成です。

生活雑記
すてきな家と出会って4年目
岡田町 中林 誠治

夏休み公民館開放

8月1日～8月5日の間、小中学生の勉強スペースとして岡田公民館が開放されました。



8月2日には信大の学生さんが一日ボランティアとして参加してくださり宿題の丸付けやわからないところを教えてくださいました。

利用した子ども達に話を聞いたところ「兄弟がまだ小さく勉強できないことがあるのでここで集中できる」「友達もいるし教えあったりもできるので勉強しやすい」といった声が聞けました。

また、ボランティアで参加してくれた大学生からは「普段は小中学生とふれあう機会がないので新鮮だった」「やってみたら丸付けなども意外と大変だったのでいい機会でした」

参加した子ども達もとても嬉しそうに帰りの際には大学生に「ありがとうございます」や「今度はいつ来てもらえますか?」などと声をかけていく子や記念撮影をお願いしている子もいたり、とても微笑ましい場面もありました。

(取材 浅輪委員)

編集雑記

ぼくとニュースの松岡町会長立澤氏は地域への愛があふれ、生活雑記の中林氏も地域へのリスペクトが現れている。夏休みの公民館開放や女鳥羽川の川遊びは経験豊富な役員の協力なくしては成り立たない。今号を通じ岡田地区の強い絆を感じ、不測の事態が起きてもこの地区は大丈夫な気がした。(S)